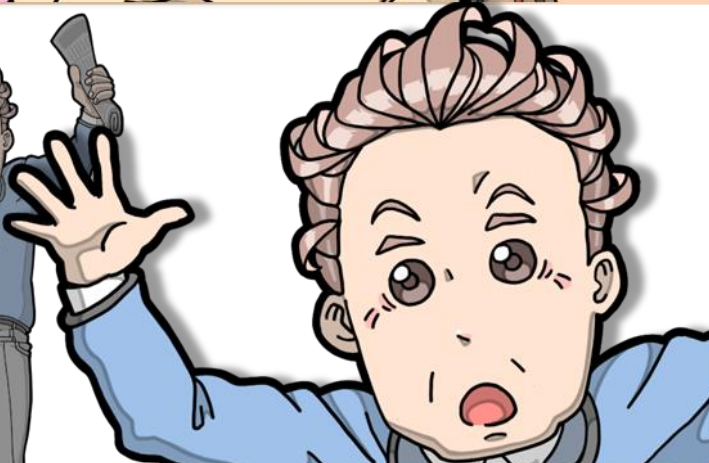
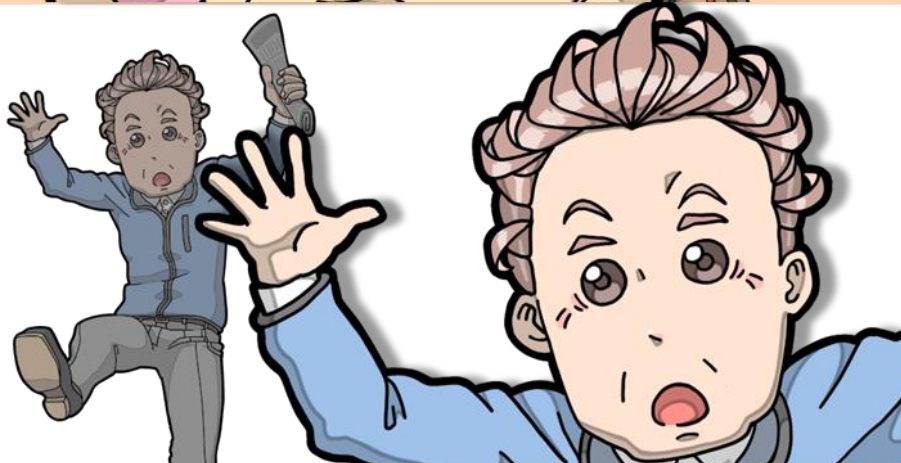
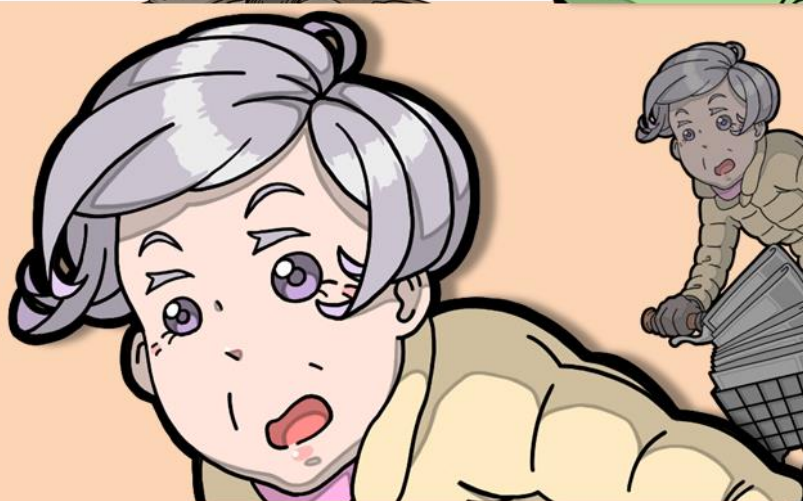
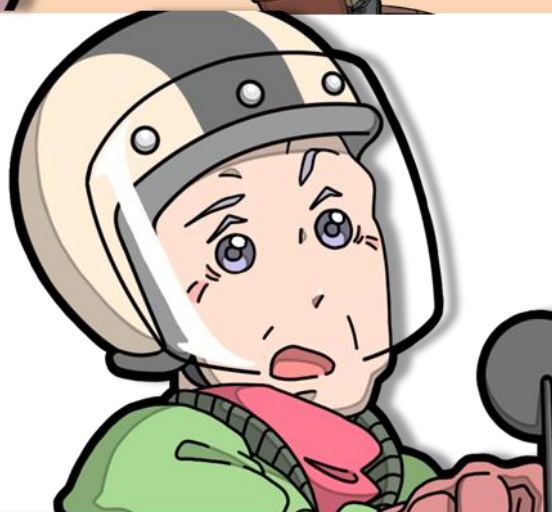


ほとんど『現場』で起きる。

新聞販売業の労災は



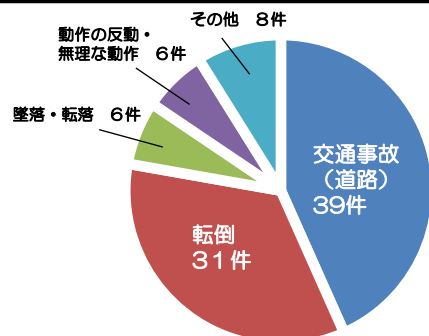
新聞販売業の労働災害発生状況

全業種で発生している労働災害の5件に1件は転倒によるものですが、新聞販売業では転倒災害が、3件に1件発生していることに加えて交通事故はそれ以上発生しています。詳しい発生状況は次の会話を参照してください。

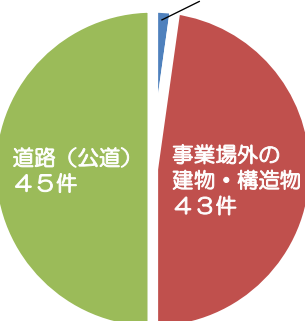


右の円グラフは島根県内の新聞販売業で過去5年間（平成24～28年）に発生した労働災害合計90件を事故の型別に分けたものです。

最も多いのは交通事故で、次いで転倒災害が多く、それらの合計は全体の7割を超えています。



事業場内 2件



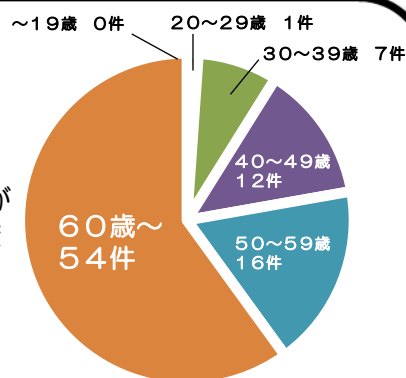
左の円グラフは同じく90件の労働災害を発生場所で分けたものです。

配達で事業場の外に出ることも多いので、ほとんどが配達先の敷地や道路で発生しています。結果、慣れない場所で転倒する事故や交通事故が多くなることにつながっています。



右の円グラフは同じく90件の労働災害にあった人たちを年齢で分けたものです。

労働災害は年齢が上がるにつれて発生件数が増加し、全体の6割が60歳以上の労働者に発生しています。身体能力の低下も交通事故や転倒災害の件数を多くする要因と考えられますね。



新聞販売業で発生している労働災害は、配達等の事業場の外で発生しているのがほとんどです。

事業場の外での安全管理は、事業者が直接を行うことができないので、各労働者の判断に委ねられる部分が多くなります。よって、各労働者が危険を認識し、安全対策を実施するよう促す必要があります。

次のページでは、新聞販売業で発生している主な労働災害の紹介します。



新聞販売業の労働災害事例



【障害物につまづき転倒】

配達先の建物、敷地には多種多様な障害物（鉢植え、自転車など）があり、通路を狭め、通行の妨げとなるため、つまづき、激突、障害物を避ける際の無理な動作などは、転倒災害につながる場合があります。

（対策）

障害物有無の確認、十分な幅のある通路の選択、走らない

【通路ですべり転倒】

側溝の上、階段、水たまり、凍結等の低摩擦の箇所で滑って転倒することがあります。また、砂利道でも足をとられバランスを崩し転倒することがあります。

（対策）

天候の確認、滑りにくい通路の選択、階段では片手を開け手すり等を使用、滑りにくい履物の選択、筋力低下の防止



【バイクでバランスを転倒】

バイク、自転車に乗る際、道路・歩道、配達先敷地の凹凸などによりバランスを崩し転倒することがあります。また、荷積みが十分固定されていない場合、走行時の振動で荷が揺れ、さらにバランスを崩す原因となります。

（対策）

路面状況の確認、荷ぶれの防止、バイク等から降車する



【交通事故】

交差点での飛び出しによる自動車等との激突、一時停止の不履行・前方不注意による衝突などの交通事故が発生しています。

（対策）

「交通労働災害防止のためのガイドライン」に沿った安全対策

上で紹介する労働災害やその他の災害について、誰もが少なからず危ないと思うような「ヒヤリ」を経験したことがあると思います。

それらの「ヒヤリ」を集めた「ヒヤリマップ」を作成して、新聞配達中の危険箇所、安全対策をみんなで情報共有しましょう。



新聞配達ヒヤリマップの作成

新聞配達中の「ちょっとした不注意」、「判断ミス」、「運転技術に対する過信」、「だろー運転」などは、転倒、交通事故などの災害につながります。このような災害を起こさないために、労働災害防止対策の一環として、全員で新聞配達時における危険箇所の洗い出しを行い、その対策や注意すべき事項などの情報を確認共有することが効果的です。安全で健康な新聞配達ができるよう「新聞配達ヒヤリマップ」を作り、安全活動に取り組んでください。

ヒヤリマップの作成手順は、次の通りです。

- ①新聞配達区域マップを配達員全員に配布
- ②配達経路を記入
- ③ヒヤリ箇所の記入
- ④対策と確認事項を記入
- ⑤作成したマップを配達員全員に周知

配達の時間帯、季節によって状況は変わるので、定期的に確認する事も必要です。



〈ヒヤリマップ 作成例〉

作成日 年 月 日

配達者 _____

